

## 2019年度 予算編成方針

### I. 予算編成に当たって

本学は、2011年度に長期ビジョンとして「世界へー国際人の育成と交流のための拠点，世界で活躍する強く輝く『個』を育てる教育・研究の実現」を定め、2014年度に第1期中期計画を策定し、2017年度まで様々な活動に取り組んできました。さらに2018年度に第1期の成果を踏まえ、2021年度の創立140周年，その先の創立150周年を見据えた第2期中期計画を策定し、更なる改革に取り組んでいます。

2019年度教育・研究年度計画の学長方針においても、「人類の課題への挑戦～総合的教育改革の実質化」，「共創による明治大学の研究のブランド化」などの指針が示され、人類の「共創的」未来に向けて教育・研究において課題への挑戦を進めていきます。しかしながら、18歳人口の漸減や文部科学省による入学定員超過率厳格化，さらには東京23区において定員増を伴う新学部設置や収容定員増を認めない法律「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律(地方大学振興法)」の成立など私立大学を取り巻く経営環境は厳しく変化しています。このような状況のもと、諸施策を確実に遂行していくことにより教育・研究水準を維持向上させトップスクールであり続けるためにも環境整備を行っていく必要があります。

今般、本学の財政状況は、事業活動収支計算書で見ると、基本金組入前当年度収支差額は、2013・2014年度決算において支出超過が続きましたが、2015年度決算より収入超過に転じ、2017年度決算においては14億円の収入超過となりました。

2017年度に学部及び理工系大学院新入生，2018年度に文系大学院及び明高中新入生から学費改定を行うとともに、2018年度からは全学部において収容定員の増員を行い収入の安定化を図っています。

また、経費節減や外部資金獲得等の成果により徐々に収支構造の改善が行われています。しかしながら、2017年度の収入超過額を見ても前年度とほぼ同水準であり、今後の施設計画推進等を考慮すると現状の収支差額は十分な水準にあるとは言えません。

2019年度の予算編成にあたっては、基本金組入前当年度収支差額を2億円の収入超過とすることを目標とします。収入については、入学定員が確実に充足され安定した学費収入を得ることが基本であり、収容定員充足率を考慮のうえ収入総額を定めます。支出については、収入状況に応じて編成することを

前提とし、スーパーグローバル大学創成支援事業の中間報告に対応した国際化への更なる取組や奨学金制度の充実等による教育・研究の維持向上、和泉キャンパス新教育棟(仮称)建設及び中野キャンパス二期工事など今後の施設整備への対応等本学のプレゼンスを高めていくために必要な施策を進めていきます。

なお、教育研究活動の持続性を確保するために引き続き財政健全化に注力するものとします。

また、人件費や教育研究経費、施設計画に要する資金への予算配分については、国際化(英語学位コース等)の推進や研究力向上等の将来構想をも見据え、人件費依存率や教育研究経費の比率等の目標を設定し、長期的な視点に立って、予算編成に反映させることを検討します。

## II. 予算編成上の主な内容

教育・研究の一層の高度化により本学のプレゼンスを高めるべく、以下の項目を強く意識しながら予算編成を行います。

### 1. 教学に関する主要課題

#### (1) 教育

「人類の課題への挑戦 ～総合的教育改革の実質化」

#### (2) 研究

「共創による明治大学の研究のブランド化」

#### (3) 社会連携・社会貢献

「明治大学と社会をつなぐ智の架け橋」

#### (4) 国際連携

「多様なモビリティの促進～すべては学生の利益のために」

#### (5) 学生生活支援

「Students First!～『他者』のために前へ」

#### (6) 男女共同参画とあらゆる性差を超えた平等の実現

「ここから始まるダイバーシティフレンドリーキャンパス～共に前へ」

#### (7) キャンパス構想

「長中期的ビジョンに基づいたグランドキャンパスデザインの策定」

#### (8) 大学の管理・運営

「開かれた大学運営を実現するための体制整備」

### 2. 施設・設備計画

#### (1) 各キャンパスの施設計画

和泉キャンパス新教育棟(仮称)建設費を予算措置します。また、中野キャンパス二期工事については計画が具体化した時点で予算措置するとともに

に、その他のキャンパスの施設計画に係る調査費等の予算措置を検討します。

(2) 将来的な建替え及び大規模修繕に備えた資金計画

老朽化施設の建替え及び修繕費の財源を明確にし、計画的な施設更新・保全を実現するために、基本金組入前当年度収支差額を2億円の収入超過としたうえで30億円を目標に建替え・修繕計画の財源とします。

なお、既存建物の建替え以外の新規計画が策定された際は、別途資金計画を見直します。

3. 人事計画

(1) 専任教員（特任・客員教員含む）任用計画に基づく予算措置

(2) 職員の人事計画に基づく予算措置

を原則とするが、過年度実績を考慮します。

4. 財務計画

2019年度の予算編成は、2018年度当初予算を基本に策定を行いますが、第2期中期計画で基本金組入前当年度収支差額をプラスにすることを明示していることから、2億円の収入超過を目標とした予算を策定します。個々の予算を精査した上で、収支見込による全学及び部門別の基本金組入前当年度収支差額を勘案します。

(1) 事業活動収入

収入の主体となる2019年度の学生生徒等納付金、補助金について、学生生徒等納付金は入学定員充足が確実に実行されることを前提とし収容定員充足率の状況を基本に算出し、学費改定の学年進行分及び入学定員増員による効果を加味して見込みます。補助金については、2017年度実績を基準に近年の補助金動向を考慮のうえ見込みます。

また、未来サポーター募金制度を始めとする寄付金の積極的な受入れの推進、受託研究費及び競争的外部研究資金等の受入れ強化、競争的補助金の継続的な獲得及び受入れ強化、効率的な資産運用及び施設の外部貸出し等の増収策については継続的に行なっていきます。さらに、教育研究経費の支出を効果的に行ない補助金の減額を最低限に抑え補助金収入増額を進めることや、事業会社との関係強化を図り活用することにより寄付金収入増加につなげ、収入の安定的な確保を目指します。

なお、2019年10月に予定されている消費税増税を見据えて、課税対象収入については新税率に基づく新料金を設定します。

(2) 事業活動支出

固定的な経費を見極めたうえで、個別経費を精査するとともに、今年度

の概算要求基準額にかかわらず過年度の執行状況及び入学定員充足の状況等に応じた全体及び部門別の収支を勘案し予算措置することとします。

新規要求はスクラップ&ビルドの考えのもとに、既存の予算を削減しその財源を明らかにして要求することを原則とし、提出された要求に対しては、効果や実績等を勘案して査定します。

また、消費税増税が行われた際の増税による経費増額分については、可能な範囲で各主管部署の予算内において調整・吸収することとします。

### (3) 基本金組入計画

#### ① 第1号基本金

2019年度に取得する土地、建物、構築物、機器備品、図書などの固定資産を組み入れます。

#### ② 第2号基本金

和泉キャンパス新教育棟(仮称)建設資金を組み入れます。また、中野キャンパス二期工事を含めた他の施設については計画が具体化した時点で検討します。

#### ③ 第3号基本金

教育及び奨学金の充実に向け、積立て計画を策定及び実行し、対象基金の積立て分を組み入れます

#### ④ 第4号基本金

学校法人会計基準に基づき所定額を組み入れます。

以 上